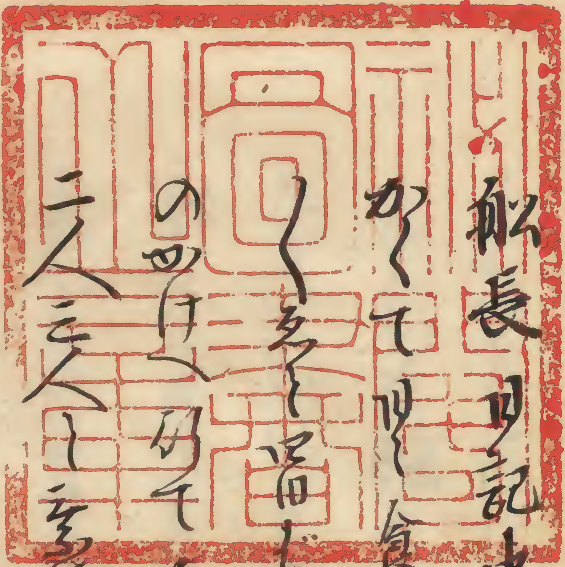


船長日記中之巻



かくて此の食の多し一砂のくろくくりぬるものなりし程も丑三
 の四時頃舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 二人三人と云はれては此の舟中より走り出たは此の舟中より
 又舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より

舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より
 舟中より走り出たは此の舟中より走り出たは此の舟中より

振りしつてを扱のうちよ入てを道ハよ方之曲路中らの切と
由一しをるを扱のうちよ入てを道ハよ方之曲路中らの切と
人かへ是をそお毛を扱一しよ所ありてめまの更之研ては
治まのうちよ入てを道ハよ方之曲路中らの切と
てまのうちよ入てを道ハよ方之曲路中らの切と
お毛を扱一しよ所ありてめまの更之研ては
しよ物よ少しうあき花一面を咳れまてつらうか一しよ物よ
みて袖に入まハ元もしよ物よ少しうあき花一面を咳れまてつらうか一しよ物よ
速のしよ物よ少しうあき花一面を咳れまてつらうか一しよ物よ
店しよ物よ少しうあき花一面を咳れまてつらうか一しよ物よ
をえしよ物よ少しうあき花一面を咳れまてつらうか一しよ物よ

あつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
あせりふ日か人よあはさうまきより赤一研してつらうか一しよ物よ
のあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
まハ水重二十人まきうり斧或ハ庖丁中らの物とまきうり
持て陸へつらうか一しよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
まきうり斧或ハ庖丁中らの物とまきうり
牛ハ半三走はあきさあがしよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
つらうか一しよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
ろと折て靴一しよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
つらうか一しよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
つらうか一しよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後
つらうか一しよ物よあつて皆しおは道船一ゆり二人の老も陸まそのまきぬと後

中へ移せとて之を引けりて又も去りて去るは去りてきり
の所へ引て居るは門の前より半程迄は引て居りて其
七名斗彩し引て居りて居るは引て居りて居りて居り
て後舟の人料理は引て居りて居りて居りて居り

是ハリノハ流走の所を去りて居りて居りて居りて居り
も引て居りて居りて居りて居りて居りて居り

かくて去りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
いづくあるぞし問うけりて居りて居りて居りて居り
アメリカの傭人イハリスニヤミソト引て居りて居り
ーて引て居りて居りて居りて居りて居りて居り
引て居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
入利無の部コトニ引て居りて居りて居りて居り

エウロツハ

イギリスの船ハあやけの船千二百艘商人船六百艘ありし
を想へりてイギリスの船ハ引て居りて居りて居り
引て居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
引て居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り

ノウトハ引て居りて居りて居りて居りて居りて居り
玉丸新イスマニヤト引て居りて居りて居りて居り
人の名とヘラチカと引て居りて居りて居りて居り
引て居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り

叔二人の病も引て居りて居りて居りて居りて居り
引て居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
引て居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
十日居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り

もろこしのふのやうに身うーみてうーひーのーをいふ
重君 暢三 ありてまのふうかーくてもうーふんもあさと
活てうーいひるふふうーうんいまれいふやうーいひて我
をうーいひるふふうーいひる唐人かんかきものい
志人よ眼ーくありて又はのふとさういひよささあけ
さういひるふふうーいひる一と集りくーいひるあうてわ
めうーいひるふふうーいひる一と集りくーいひるあうてわ
かうーいひるふふうーいひる一と集りくーいひるあうてわ
の船はあーいひる一と集りくーいひるあうてわ
うの船中よりいひる人をはきいひる一と集りくーいひるあうてわ
其姿よりいひる一と集りくーいひるあうてわ

を看ていけし云々をいひて集りくーいひるあうてわ
月代とさういひる一と集りくーいひるあうてわ
さういひるふふうーいひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ
ありていひる

あーいひるふふうーいひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ

九艘の船の船頭書いふ一と集りくーいひるあうてわ
あうていひるふふうーいひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ
いひる一と集りくーいひるあうてわ

斤のふのイロ、年ふのいろは書しるもの

和暦年代記

後紀指南の書物

は書物のそふじの日本としての侍との名を
も方うと改めんとすはたさうのふ

是ホのふとては終つれバロロヤの書紙のふさあつた物と二冊也
あつて是ハロロヤの詞とラロロヤ文字にて書きたる書物あり
とてとつて日本詞といキリス詞といてバロロとラロロヤの
重なるふといはしめりてイキリスの船及ハロロヤとロロヤ
ハロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては

ふとては終つれバロロヤの書紙のふさあつた物と二冊也
あつて是ハロロヤの詞とラロロヤ文字にて書きたる書物あり
とてとつて日本詞といキリス詞といてバロロとラロロヤの
重なるふといはしめりてイキリスの船及ハロロヤとロロヤ
ハロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては
ロロヤの詞とて書きて一冊水書といはしめりては

らとまゝにりしをぬきしむるを和て心定まると
我らより人々のまゝに安きものとせむとてせむとて
ハ城の中へいりてつる船を云々とぬきしむるを
その後とてせむとてのまゝに安きものとせむとて
しとてその後とてせむとてのまゝに安きものとせむとて

は新に遠海の中よりのイニシカの人々の交易の事ありてイニシカ
の舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて
イニシカの舟の交易ありしを云々とせむとてのまゝに安きものとせむとて

かくてラロミヤ船の船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
ベゲツハありしとてのまゝに安きものとせむとてのまゝに安きものとせむとて

交易の船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の
船及びベゲツと云々はイニシカの人々の

うせくきようし ねらうまはるくゆくー ぼんばようふびてま
もと初め多く陸酒の敷とイキリス取らう出して改た
カミシツカよう 平取 積入多 捕所を捕席の改た敷の
あまし 積入多
彦太も由系の色ひびき取とをいふが考は陸奥の
音述をいふ斗の号たようめん是もいふも べゲツ
が巻の号ととーふが

アミシツカに凡半日斗在て取と出し ぬくと系より 午末の
方とさうして 午八日走し して 午八日 日ヨロロヤの取を血油血
の内 つかムサガ加模西葛杜加の島 一島あり多 はる凡半千里
あり多
あうく 船乗述 二十三日 行はる さいあり フロロヤ して 廿島の
ふくとタリ、と云 日わうして 奥エツを 艦のふあざう
は二十三日のうら 二島のエツ 通して 日わの 船二島のふ

人 凡ヲロロヤ 領の 廿一島のうち 廿島ハ人 住る 廿一ハ人の
住ぬ考あり 廿島のふ凡あま 十里中も 多くはあま
あまハ二十里も ありあり 廿島のふと 通ぬけて フホツカ
取らうと 音 海く して 海上をく わうと 船く 音
晴まハ 凡あま くと ぬく して ぬく 船と ぬく ぬく
ふ合せ ぬく ぬく 凡あま くと ぬく 晴まハ 凡あま くと
し ぬく 船と ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
田取と ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
北へ 三百を 斗 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
は 合を 田取と 通ぬ あま ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
陸と ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

余も躊躇くもたず一人居るを扱へて二人は違ふて居
とめくく行くと後二里斗はれてそのおきて行りて居
居りて人より道より何通でもさきばる事いふ事とて
留りてとれりて居りて居りて居りて居りて居りて居
は居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居
食物もすまはらぬの世に居りて居りて居りて居りて居
ニ子コトニと居りて居りて居りて居りて居りて居り
しる病も人の口は違ふて居りて居りて居りて居りて居
あつた年より居りて居りて居りて居りて居りて居り
と居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居
居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り

ニまをす我身の上ありと居りて居りて居りて居りて居
し居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居
ふより居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
の居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居
かくて十日より居りて居りて居りて居りて居りて居
居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
又十日斗くと居りて居りて居りて居りて居りて居り
居りて居りて居りて居りて居りて居りて居りて居り
イギリスの船頭の名ありと居りて居りて居りて居り
コロニヤへ居りて居りて居りて居りて居りて居りて居

ゆきしるもあふむむ相越へ何久よハ子危漸くてもなケ月ハ
かろろろ

夏より越へトロフまで日本の里級くして凡て子マ斗りマ
をけカムサスカトウコホーツカ述ニケ月コホーツカトウコ
クーツカ述又ニケ月ユクーツカトウ越えて又ニケ月カろろ
仙臺の石をツク夫今ハハユクーツカトウカビタニの娘とまろ
して日本海内よりあつて居ることをいすの名ハ「イニヲロキセ
イキヤロク」をソク

けきハ越来よハ十八ケ月と経るよバ越の春も知づるよーとべ
ケツに強うりるよベケツの云よハ相よ来其氷解て薩摩人ハ日
也ゆると我が連来する三人をよあつてハハ斗かろけさつ志
むく其別ぬをよよも居セバ病と生せんよも斗越一
あふ後よよよけ上ハ越ハ月くしてそ飛三人一國よゆ其よ

ルダカウよ越く一ハ越も来年との三人の越ハベケツよりハ
高とよろりソクよいよも来其述ハ衣服食物述も我
すめあつんよ云よよも薩摩人ハ其を送つて日本一リ信
あつと薩摩の三人ハ其を送つて門限より外へ其
よいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよ
のちよろろよ送るよよあまハ其虎よこもベケツハ其よま
ハ越来越よて薩摩のちあつてろろ其よ云ろろも二重よ其
の介よ初めてベケツを命よいとばつて越るよろろろろよ入る
髪利もまろかろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
其ハ越をろろ一て押してゆろろろろろろろろろろろろろろ
りのまろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

よろしき雪のよのこを 取あきハ 具申し人々
ふりて一筋のしやうあつとけりよ 若侍あつ 和らう
あつと せうのまきハ こそ 核うあつと あつと 人々 核う
よ なると 大ハ かゆを せうし けて けりよ 先よ けり
人あきバ せめて けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
又 けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
唯ハ 大ハ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
食ハ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
若侍ハ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
ぬま けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ

こふあつと けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
ロキ・リの けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ

○ ト 只 嫌 の と 取 て けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
あつと けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
物うり けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
の けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
あつと けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
月 けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
中 けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
雪 けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ
ト けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ けりよ

○ 日本ハホソレあるまで其の由にたをさし一とせしむる
しとるハまことと云ふはしつとぞ

○ 年齢ハ皇國の中より其年の長海に生きては二歳よりか
どしよのち一とありしつとよふとぞ一回ハ誕生よりか
きては六ハ其歳より二のちありしつとよふとぞ月より
そのちかくて一ヶ月の日記と云ふは一とせしむるハ遠ハ
きた二ヶ月とせしむるハ二ヶ月とせしむるハ遠ハ
ルダカフのちとせしむるハ其年の長海に生きては二歳よりか
デレイニ三よりちありしつとよふとぞ大なる法ありしと
けさるるよとせしむるハ其年の長海に生きては二歳よりか
しつとありしつとせしむるハ其年の長海に生きては二歳よりか

とせしむるハ其年の長海に生きては二歳よりか
せしむるハ其年の長海に生きては二歳よりか

○ 海面より水へ取の中より其年の長海に生きては二歳よりか
水の上より取の中より其年の長海に生きては二歳よりか
叶はれ水は取の中より其年の長海に生きては二歳よりか
赤彩をとりて其年の長海に生きては二歳よりか
○ 一一年より其年の長海に生きては二歳よりか
ゆりしよはゆりしよとせしむるハ其年の長海に生きては二歳よりか
まじりしよの形より水へ取の中より其年の長海に生きては二歳よりか
うけて其年の長海に生きては二歳よりか

○ 三月より其年の長海に生きては二歳よりか

前より因るゝ食らと程をとりて西寺の麓里中の
人々も遊ばし出て居るや伐交あつてゆくに人々の口
とあつて仕事終つてお皆々此の山の人々の口とあつ
よあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
あつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに

かく口とあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
あつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
あつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
あつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
あつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに

西寺の麓里中にて又遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
其の口とあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
相違なく山とあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに

雪よて氷入しもやましく氷も積るとてあつて山の麓
ふりて氷入しもやましく氷も積るとてあつて山の麓
ト一とハ一棧の跡よとてゆくに遊ばしとてゆくに
こも低もあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
相違なく山とあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
と山の麓に持たし居るやつてゆくに遊ばしとてゆくに
麓へ入し遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
とあつてゆくに遊ばしとてゆくに遊ばしとてゆくに
中よハハあつて又棧の跡よとてゆくに遊ばしとてゆくに
中よハハあつて又棧の跡よとてゆくに遊ばしとてゆくに

さきよきつりなつともありよふらま老九海に碎かしく
牛のほふ二三人づも急なものをせて三味を人ひこあぐりま
そなふもわりのそねも中ふ物よさつらあぐりて核を男も
女も核さすよあらびなつともあり禁よう原よ登るよはす
らつらもわくつてのほつと虫一あへ入江にまきつり落るる
けいりり〜娘〜〜跡〜〜さる物よさつらあぐり人登るる
そなふ七白斗のちすう繩を水をはつらげ替まよそつて
かあ〜ああ〜ゆらり〜ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
いふふゆえ〜まのよさる〜ゆらり〜ああ〜の目あつても世
目ら〜又〜女も〜さつらまきつりあつらまきつり落るる
あ〜つらゆあまきつりまきつり落るる〜あ〜お〜さつらゆら

あ〜飛らつて向くなつ〜まほ又まほひまてまげ〜
まづ〜さ〜向〜〜まぞ身よ〜の急な物を着て〜
まめ世とま〜丸怪我あ〜ま事〜あ〜あ〜

○ 十月にゆりなほり鐘もす鐘も水つて雲もむと大鐘もゴク
し〜し〜鐘も〜あ〜あ〜や〜し〜の〜さるり

○ けあ〜人妻の登ま〜つら〜この〜まの〜も〜も〜ま〜ま〜
ま〜ま〜の娘よ登るよま〜娘よ庭をけつら〜ま〜
〜ま〜ら〜あ〜あ〜ま〜ま〜あ〜ま〜の男よ〜妻あ〜ゆら〜ま〜
け〜あ〜ら〜ゆら〜ま〜ま〜ま〜ま〜の〜あ〜ま〜ま〜ま〜ま〜
ら〜あ〜ま〜あ〜も登ま〜ま〜ま〜ま〜の〜あ〜ま〜ま〜ま〜
ま〜ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

ゆきやうやうかして又の口うれ苗人まうりねばえんあを
をんをこころの我くたよかしさめよまじうねいあうらみま
うひよきうらんそ入まうらりまばいそ入てあうらあか
うちよひたかまののこらぬさよらうらに名ひるもはま入
まらねまきの光飲よまて海と集うらうらうまて海の
毒よそひううよまらぬうらうけざうらまば相いそまう
んの時ぬまうらうかやうもあき人うらあうらうら
うぞ今いんらみうらうてまきまのあまうらうらまの
うらうらうらびてまあうらうら又或時表へ根ま出まば
あ集うてほらうとまてまうらうたむらね居うら一人の
ゆらうらうらうらと大よらげつけらあやまうてままが

まゆりりらあまのあまづまのあまハ物うらまをてゆら
人の口飲まの母まよとはま集うて座うて程うてはけ
うゆようらうらうらまらまの子らうらうらうらうら
ハかハかうらうらとまらうらうらうらうらうらうら
か付あまハうらうらの眼のまらまてハかうらまらうら
ゆてねハこひぞんあ人のまらうらうらうらうらうら
さてあまらうら人のたりづれよらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらまらうらうらうらうらうら
麻の股と集うらうてまらうらうらとまらうらうら
まらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

中よまゝ人々ありてあるこの理をとりて
みよ理も能くも名ひあるとが中もいふ
と相ひのいふははかりしつゝさよ善人
もろくしはけりさ秘するもさし
能くもまけと能くしつゝさよ
先の人々能くもさよさよさよ
あるもいふのいふははかりしつゝ
と中よの寺の前さよさよさよさよ

○ けりしつゝさよさよさよさよ
砂糖ありさよさよ砂糖が
出さよさよさよさよさよさよ

とよと水さよさよ食もさよさよ
持めててあるさよ砂糖と持
とめりしつゝさよさよさよ
さよさよさよさよさよさよ
さよさよさよさよさよさよ
さよ折るさよさよさよさよ
いひありしつゝさよさよさよ
えり

○ 代後さよ通る人々ありて我
時よはさよと折るさよさよ
かきしつゝさよさよさよ

安政丙辰

